

vivo

水戸芸術館音楽紙 [ヴィーヴォ]

4 April 2006

CONTENTS

ATMアンサンブル 第21回演奏会	1,2
茨城の名手・名歌手たち第17回 オーディション	3
最近の公演から	3,4
ネットマ&プチ情報	5
インフォメーション	6



カール・ライスターとの夢の共演でお届けする、モーツァルトの宵。 4 / 29(土)ATMアンサンブル第21回演奏会

モーツァルトに贈る、音楽の花束

今年、18世紀ウィーンの大作作曲家ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756~91)の生誕250年。日本にもぎやかなお祝いムードに包まれています。しかし、シャンパンの栓を抜く音やクラッカーがはじける音の喧騒にまぎれ、本来静かに耳を傾けるべき「音楽そのもの」がなおざりにされては元も子もありません。しかもその音楽も、メディアに取り上げられるときにはしばしば「聴くと頭が良くなる」とか「波が出て精神安定」とか「にいい」といった「薬効」を謳われていたりして、天国のモーツァルトはかなり複雑な気分なのではないでしょうか。はからずも今年の1月27日、モーツァルトの誕生日にザルツブルクのモーツァルテウムでスピーチと記念演奏を行った指揮者のニコラウス・アーノンクールは、スピーチの中で商業主義と拝金主義を激しく糾弾しつつ、こう述べています。「もしこのような回顧年が何らかの意味をもつとすれば、われわれは彼の音楽を聴いて聴いて聴かなければならないことだと思います。そうすればたぶん、メッセージのほんのわずかな部分でも理解することができるでしょう。」水戸芸術館コンサートホールATMも、今年もモーツァルトの音楽が登場する演奏会を数々用意しています。

しかしそれはあくまで、皆さんと共に「聴いて聴いて聴く」ためのもの。この偉大な音楽家への祝賀の気持ちは、音楽をとことん聴き、味わい、考えることによって表明しようではありませんか。

さて、「モーツァルトに贈る音楽の花束」第1弾は、4月29日(土)に行われるATMアンサンブル第21回演奏会です。4月30日(日)には同内容で愛知県碧南市芸術文化ホールでの演奏会も行います(お問い合わせ先/同ホール TEL 0566-48-3731)。ATMアンサンブルにとってモーツァルトの音楽はもちろん欠かすことのできないレパートリーですが、全曲モーツァルトの作品で構成した演奏会はこれが初めてとなります。モーツァルトづくしのこの演奏会、さっそくプログラムの4曲をご紹介します。

今宵はモーツァルトづくし

まず、今回のプログラムのメイン・ディッシュとなるのが、クラリネット五重奏曲 イ長調 K.581です。18世紀に生まれた新しい管楽器、クラリネットの魅力をとことん引き出した、このモーツァルト晩年の傑作(1789年作)。あらゆる虚飾を捨て去り、さりげない身振りの中に深い情感をこめた、すばらしい作品です。ゲストを迎えるのは、世界

最高のクラリネット奏者の一人、カール・ライスター。カラヤン時代のベルリン・フィルのトップ奏者を長く務め、またソリスト、室内楽奏者として古今東西のクラリネットの名曲に名演を残し続けている、偉大な奏者です。均質で芳醇、しかも芯のしっかり通った音色。並外れた楽曲への理解の深さとたゆまぬ研究心に裏づけられた、楽曲の本質をあますことなく表現しつくす演奏。

ライスターは、すでに水戸室内管弦楽団の定期演奏会に2度登場しています。1995年の第24回定期演奏会ではソリストとしてモーツァルト「クラリネット協奏曲」を演奏。また2004年の第59回定期演奏会ではゲスト・メンバーとしてドヴォルジャーク「セレナード」およびバルトーク「ルーマニア民俗舞曲」を演奏しています。そのときの演奏に出会われた方ならば(あるいはその他実演やCDでライスターの演奏を聴かれた方ならば)、前述の形容が誇張でもなんでもないことをご理解いただけるでしょう。

そのライスターとATMアンサンブルがモーツァルトのクラリネット五重奏曲を共演するのですから、これはもうこたえられない「夢の一夜」です。

しかもライスターは、この曲だけでなく、もう1曲、素敵なプレゼントを携えてきてくれました。そ

れが、クラリネット五重奏曲楽章(アレグロ) K.Anh.91(516c)です。この曲は、未完のクラリネット五重奏曲の第1楽章として書かれたと推測される断章で、近年の研究によると1791年、つまりモーツァルト最後の年に書かれた可能性もあるとのこと。つまり、レクイエム同様、早すぎた死によって完成を阻まれた作品かもしれないのです。曲は93小節まで書かれたところで中断していますが、今回は音楽学者(フォルテピアノ奏者でもある)ロバート・レヴィンが補筆完成した版が用いられます。レヴィンの名は、水戸室内管弦楽団第58回定期演奏会(2004年7月)で演奏されたモーツァルト 協奏交響曲 変ホ長調 K.Anh.9(297B)の復元版作成者として、ご記憶の方も多いでしょう。ただしこの断章、実は第1楽章として完成されていて、中断以降のページは行方不明、という説もあります。いつか、ピアノと管弦楽のためのロンド イ長調 K.386のように、紛失していた部分が劇的に再発見される、などということもあるかもしれません。どちらの曲もライスターは新しい研究データを盛り込んだ新

モーツァルト全集の楽譜を使用し、研究熱心ぶりを見せてくれます。なお今回私たちは、ライスターにEメールでインタビューを行います。当日の演奏会プログラムに掲載する予定ですので、楽しみに。

また、ライスターはこの演奏会に先立ち、「第39回水戸市芸術祭」の一環として、水戸を本拠に長い活動歴を誇るアマチュア・オーケストラ、「茨城交響楽団」とのまさに「歴史的共演」を果たします。この演奏会については、『プチ情報』のコーナーをご覧ください。

ATMアンサンブルも単独で、モーツァルトの名曲を2曲とりあげます。まず 弦楽四重奏曲 第15番 二短調 K.421(417b)は、いわゆるハイドン四重奏曲集の6曲のセットに含まれる、渾身の力作。悲痛な表情と、バロック的な書法が印象的な作品です。水戸カルテット第1回演奏会(1990年4月)以来の再演となります。もう1曲は、初めてのレパートリーとなる アダージョとフーガ 八短調 K.546。荘重なアダージョ部と劇的なフーガ部からなる、これも非常にバロック的な作品。どの

ような目的のために書かれたのか、謎の多い作品です。弦楽合奏のための作品と考えられていますが、今回は弦楽四重奏で演奏します。

というわけで、2曲のクラリネット五重奏曲の高雅と気品、2曲の弦楽四重奏曲の暗い情念と、モーツァルトのいろんな顔に出会うことができるこの演奏会。喧騒から離れ、モーツァルトの音楽にひたすら耳を傾けたい方に、自信を持っておすすめします!また、ご来場の方には、当日開場30分前から、芸術館のカフェに演奏会チケット半券を提示していただくと通常「250円」の飲み物が無料になる、という特典がございます(協力は株式会社エディファミリー)。このくらいのお遊びは天国のモーツァルトも笑って許してくれるでしょう。おかげさまでチケットはもう残りわずか、5月12日の「アンドレアス・シュタイアー フォルテピアノ・リサイタル」とのセット券もだいぶ少なくなってきています。どうぞお早めに、お聴き逃しなく!

《矢澤》

今回の演奏会をより深く楽しむためのディスク・ガイド

クラリネット五重奏曲 イ長調 K.581

本文中にあるように、ライスターはなんと5回もこの曲を録音しています。1回目は1965年、ベルリン・フィル・ゾリステンと(ドイツ・グラモフォン)。2回目は1981年、ウィーン弦楽四重奏団と(カメラータ・トウキョウ CMCD15007)。これはクラリネット協奏曲とのカップリングです。3回目は82年、ブラジャーク四重奏団と(オルフェオ KKCC8037)。4回目は88年、ベルリン・ゾリステンと(テルデック)。そして5回目は95年、ブランディス四重奏団と(ニンバス)。これはホルン五重奏曲、オーボエ四重奏曲とのカップリング。それ以外はすべてブラームス:クラリネット五重奏曲とのカップリングです。

なお最近では、この曲は本来、通常のクラリネットよりも音域の低い、バセット・クラリネットのために書かれた、という学説が有力になっています。バセット・クラリネットを使った演奏も、チャールズ・ナイディックとラルキブデッリ(ソニークラシカル)など複数登場しています。

クラリネット五重奏曲楽章 変ロ長調 K.Anh.91(516c)【レヴィン補作】

これも、ライスターのCDが入手しやすいでしょう(カメラータ・トウキョウ CMCD15062)。ライスターは、そのほかクラリネットのためにモーツァルトが残した小品、断章、編曲作品を集

K.Anh.91(516c)収録盤。これもカップリング違いで、ブラームスとウェーバーのクラリネット五重奏曲との組み合わせ。



ライスター&ウィーンSQ盤。このジャケットはオリジナル盤のもので、ブラームスのクラリネット五重奏曲との組み合わせ。



めた興味深いアルバムも作っています(カメラータ・トウキョウCMCD28022)。

弦楽四重奏曲 第15番 二短調 K.421(417b)

古今東西の名盤は山ほどある曲ですが、まずは「定盤」としてアルバン・ベルク四重奏団のもの(EMI TOCE13027)。オリジナル楽器によるクイケン四重奏団のものも、また違った魅力があります(デンオン/アリアレー COCO78086)。



アルバン・ベルクSQ盤。

アダージョとフーガ 八短調 K.546

弦楽合奏版で演奏するか、弦楽四重奏版がいいか?あなたのお好みはどちらでしょう。前者ではクレンペラー指揮ニュー・フィルハーモニア管弦楽団の威厳ある演奏が印象的です(EMI TOCE13204)。鈴木秀美指揮オーケストラ・リベラ・クラシカ(TDKコア TDK-AD006)のバロック的アプローチも一興。最後の部分でコントラバスとチェロ・パートが分離するので、ほんとは弦楽合奏版が「正しい」のですが、クレームレ、フィリップス、カシユカシアン、ヨー・ヨー・マという強力コンビで聴けば、「弦楽四重奏こそ本来の姿ではないか」と思ってしまうかも(ソニークラシカル SRCR2673)。さて、ATMアンサンブルはどんな演奏を聴かせてくれるでしょうか。

次代の名手が生まれます。 4 / 15(土)「茨城の名手・名歌手たち第17回」出演者オーディション

茨城県に関わりのある優れた音楽家を広く紹介する演奏会「茨城の名手・名歌手たち」も、今年で17回目。9月30日[土]開催予定の演奏会に先立ち、4月15日[土]に出演者オーディションを行います。今回は、鍵盤楽器、弦楽器、邦楽器、邦楽アンサンブルの各部門が審査対象です(管楽器、打楽器、声楽、器楽アンサンブル各部門は、次回の対象となります)。

オーディションは、茨城県に関わりのある方ならどなたでもご参加いただけます。3月28日[火]に応募受け付けを締め切ったところ、合計29件の応募がありました。9月の演奏会に向けてこの29組の方々が、次なる名手を目指し、熱演を繰り広げてくれることでしょう。もちろん名手を選出する審査委員の先生方も真剣です。彼らの演奏を

聴き、慎重に採点をし、さらに審査委員全員で話し合っ、演奏会のステージに立つ名手たちを選ぶのです。なお、このオーディションの様子は、一般公開されます(入場無料)。オーディションの

日程は、以下の通り。

次なる名手たちが誕生するこの日、どうぞ彼らへ熱いエールをお送りください!!

《馬場》

4月15日[土]

14:00 ~ 鍵盤楽器部門(パイプオルガン)
エントランスホールでの審査となります。

14:15 ~ 鍵盤楽器部門(ピアノ)

16:40 ~ 弦楽器部門

17:40 ~ 邦楽器・邦楽アンサンブル部門

審査委員(五十音順、敬称略)

[審査委員長] 畑中良輔

[鍵盤楽器部門]

岩井宏之、小林 仁、高山三智子、畑中良輔、
間宮芳生、若杉 弘

[弦楽器部門]

岩井宏之、畑中良輔、堀 伝、間宮芳生、若杉 弘

[邦楽器・邦楽アンサンブル部門]

岩井宏之、田村拓男、畑中良輔、間宮芳生、
若杉 弘

最近の公演から

FEBRUARY



1



2



3

オペラの花束をあなたへ17

佐藤美枝子の《幻想のルチア》(2月3日)

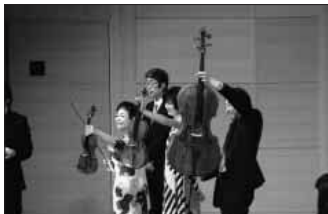
畑中良輔企画の人気シリーズ、今回は佐藤美枝子(ソプラノ)主演による《幻想のルチア》を取り上げた。これは、ドニゼッティのオペラ ランメルモールのルチアのハイライト版であり、演出家の岩田達宗が中小規模のコンサートホールでも上演可能なように再構成したものだ。薄青く沈んだ照明、幾重にか左右シンメトリーに垂らされた白いカーテン、黒の床面に浮き上がる白い十字架。ホールは開演前からルチアの悲劇への序奏をかなでているようだった。さて、何と言っても注目は佐藤美枝子のルチア。ますます磨きのかかった透明な歌声、伸びのある高音、技術の誇示に走らず内実を伴ったコロラトゥーラ、そして迫真の演技で聴衆を魅了した。特にルチアの魂が乗り移ったような 狂乱の場は圧巻だった。エドガルドの望月哲也(テノール)は予期せぬ不調に見舞われたが、ピアノの河原忠之はオ

ーケストラの音色と迫力を十分に引き出し、かつ無言の演技(エンリーコ役)で劇にも加わって強い存在感を示した。《関根》アンケートからもう一度、もう二度、もう三度聴きたい。(東茨城郡:M.I.さん) 佐藤さんの素晴らしい歌声に魅せられて、情熱的な愛に涙し、全身の震えを覚えた感動でした。(那珂市:Y.S.さん) 佐藤美枝子さんは声、表現、演技どれも素晴らしく、ベルカント・オペラの魂を感じる名演でした。(無記名の方) オペラにはあまりなじみがありませんが、字幕があつてとてもわかりました。舞台に設営された布と照明がとても美しく、会場に入った時とてもワクワクしました。(水戸市:Y.H.さん)

大きな劇場での全幕物に比べてもまったく引けを取らない素晴らしいオペラでした。説得力があり、このホールのよさを生かし切った演出になりました。ピアニストも大変素晴らしく、まるで生のオーケストラを聴いているかのようなリアリティーを感じてとても良かったです。(無記名の方)

1~3. オペラの花束をあなたへ17

最近の公演から FEBRUARY



1



2



3



4



5



6



7



8

中学生のための芸術鑑賞会(2月7、8、14日)
 水戸市立中学校全16校と茨城大学附属中学校および茨城中学校の1年生、およそ2,600人をホールに招いて開催した鑑賞会。出演は久保陽子(ヴァイオリン)、中村静香(ヴァイオリン、ヴィオラ)、堀了介(チェロ)という水戸室内管弦楽団などで活躍する弦楽器奏者と彼らとの合奏を長年行っている弘中孝(ピアノ)。演奏家たちの中学校時代のエピソードなどのトークを挟みながら、独奏曲からピアノ四重奏曲まで、名作の数々を紹介した。また終演後、希望する生徒たちは、エントランスホールでパイプ・オルガンによるバッハの「小フーガト短調 BWV578」の演奏を鑑賞した。オルガン演奏は勝山雅世。《中村》中学生のアンケートから「体全体で音楽を表していて、とても感動した。あんなにうまく弾けるのは、努力をたくさんしたからだということが、よくわかったので、とてもためになった。(双葉台中生)」4つの楽器ですばらしい演奏が聞けて良かったです。とくにピアノの人の弾く手が1本1本生きているようでした。すごく思い出に残りました。(内原中生)「1つ1つの楽器が異なる音を出し合って、綺麗な1つの音楽を奏でていることがすばらしかった。1つの楽器だけでも、様々な表情の音を出していたことに、おどろいた。(常澄中生)」

現代音楽を楽しもう - XIX

パーカッション・ミュージアム(2月11日)

作曲家の池辺晋一郎企画の人気シリーズ「現代音楽を楽しもう」の第19回目となる公演。今回は、菅原淳を中心とする打楽器アンサンブルのパーカッション・ミュージアムによる演奏会。ステージ上は、4トラックに満載されてきた大量の打楽器が次から次へと登場し、まさに打楽器の見本市状態となった。菅原淳をはじめ、日本各地のプロ・オーケストラやソリストとして活躍する打楽器奏者たち総勢10名がこれらの楽器を駆使して、現代の打楽器作品の様々な諸相を紹介してくれた。作曲家の福士則夫、北爪道夫の両氏も舞台上に飛び入り参加し、池辺との楽しいトークを聞かせてくれた。《中村》アンケートから「90歳の母をつれて参りました。たいへん楽しい一時でした。(無記名の方)」ステージ上にも楽器があり、楽しい意外性のある音にハッとしました。打楽器の音(色彩)の多様性に驚きました。(H.T.さん)「打楽器を弦や管楽器の代替とするのではなく、「打楽器」でなくてはできない表現というのを見て、聞けたように思います。

ドラムの音というのは体の芯に響くような心持で、すこし元気になれたように感じます。(水戸市:K.E.さん)「現代の音楽はむずかしそうに思っていたのですが、いろいろ考えて聴くより、響をそのまま感じとるだけでも、とても不思議な感じでした。今日の体験はとても貴重だなと思いました。(水戸市の方)」

ちょっとお昼にクラシック5(2月14日)

上記「中学生のための芸術鑑賞会」と同じ出演者・内容で、平日の昼間にお楽しみいただくコンサートとして開催しているのが「ちょっとお昼にクラシック」シリーズ。演奏家たちの気さくで楽しいお話が聞けるのも魅力のひとつだ。《中村》アンケートから「それぞれの方のソロもアンサンブルもすばらしく、気軽なのに深い感動もありました。(水戸市:M.D.さん)」とてもとても美しく感動しました。こんな安価でよいのかしら。(無記名の方)「まるで4人のリサイタルのような素晴らしいコンサートでした。あつという間の夢のようなすばらしい一時でした。(無記名の方)」

白相まどか 大内田奈名子 城戸春子 トリオ・コンサート(2月19日)

一昨年パリで出会った3人が結成したトリオの演奏会。メンバーのうち、白相まどか(ピアノ)と城戸春子(チェロ)は水戸出身の演奏家。このメンバーでの演奏会はパリでの結成公演に次いで2度目とのことだ。プログラムは、マルティヌー、ドビュッシー、フォーレ、ショーソン作品で構成された近代フランス音楽を核とするもの。若い3人の演奏は、瑞々しく爽やかで、一足早い春の陽光を浴びているかのようにであった。《中村》アンケートから「とても上品で素敵な演奏会でした。フォーレは精神的に大人っぽい演奏。光ってました!ショーソンの3楽章も私は大好きでした。大内田さんのヴァイオリンは初めて聴きましたが強い綺麗な音で巧いなと思いました。(水戸市:M.M.さん)」フォーレ、ドビュッシーは、それぞれの世界に心地よく浸ることができました。ショーソンは、フランクの世界が顔を出したり、フォーレの雰囲気になってみたり、実に楽しいひと時でした。3人3様の個性で弾いていても、「節度と気品」という点で共通していて、それが、聴き手をノブルな心情に高めてくれました。(笠間市:K.T.さん)」



*nettama=ネットワークする猫、タマ。芸術館のコンサートをサカナにいろんなどころへnettamaします。

モーツァルトも苦労する

それにしても今年はモーツァルトの「名前」をよく聞くなあ。生誕250年ということである。メディアでモーツァルトの「名前」が喧伝されている。あからさまにコマースリズムに乗った企画も多くていささかうんざりさせられるのだが、コンピレーションCDなどもたくさん出ているし、これからモーツァルトの「音楽」をじっくり聴いてみようという方にとっては、この上ないチャンスであることは間違いない。

ただ得てしてブームというのはその対象の表面を撫でまわして終わることが多いから、注意が必要だ。今回の生誕250年ブームでも、モーツァルトの天才性ばかりが強調されて、なんだかなんの苦労もなしに神がかり的に名曲を量産しまくったかのような印象が流布しがちで、ちょっと怖い。

もちろん途方もない人であることは間違いないのだけれど、モーツァルトだって人の子、ひと知れず作曲に苦労したことは数知れずあるだろう。そのことをいちばん雄弁に教えてくれるのは、彼が残した数多くの未完作品や断片だ。何を隠そう(いや、隠すこともないけど) ATMアンサンブル第21回演奏会でとりあげられるクラリネット五重奏曲楽章 変ロ長調 K Anh 91(5 16c)も、立派な(?)断片作品である。

たとえばモーツァルトがもっとも力を入れた分野のひとつであるピアノ協奏曲でいえば、10曲以上の断片が残されている(これは僕が資料で調べた数なので、もっと多いかも)。あくまで「残されている」数だから、じっさいにはもっとずっとたくさんの「書きかけ」作品がひと知れず消えていったのだろう。その中で、たまたま残った

のかもしれないが、いちばんポピュラーな名曲、イ長調K 488のための断片が4曲も含まれているのが驚きだ。あの、どこをとっても完璧な傑作が誕生するまで、こんなに試行錯誤があったんだなあ。ほかに、おもしろいものがある。正確には「断片」にも満たないものなのだが、K 415(387b)の協奏曲の第2楽章は、ヘ長調で書かれているが、自筆譜には八短調で書こうとして消した後があるという。この時期までにモーツァルトがピアノ協奏曲の緩徐楽章を短調で書いている例は、K 271 ジュノーム のすばらしい第2楽章が唯一で、それだけにこれは野心的な試みだったといえる。とはいえ結局モーツァルトは「どうもこれじゃうまくないなあ」とそのアイデアを取り下げてしまったんだね。ところがモーツァルト、いったん捨てた八短調の楽想を第3楽章でふたたび採用した。それがあの陽気なロンドの途中に突然登場するピアノによるアダージョ部分だということだ。たしかにあれはすごい効果だよ。うーん、転んでもただでは起きない人だ。

こうした例はほかのジャンルでもたくさんあるが、興味深いのは弦楽四重奏曲。モーツァルトがハイドンの弦楽四重奏曲からの影響を乗り越えるために「長くつらい苦しみの末」完成させた、6曲のいわゆる「ハイドン四重奏曲集」に関する断片が多いのは納得がいく。特に2曲残っているフーガの試作は、どうしても長調K 387終楽章のあのアクロバティックなフーガと関連づけたい。ただ意外にも、いちばん苦労した痕跡が残っているのが、いちばん簡明で晴れ晴れとした「狩」K 458というのがおもしろい。むずかしい言葉で書くよりも、やさしい言葉で書くことのほうがよりむずかしい、ということなの

かな。そういう意味で言えば、晩年の「透明な境地」と評されることが多いプロイセン四重奏曲集の3曲により多くの断片が残されているというのなかなか興味深い。

さて、これらの断片は概して10小節とか20小節とか、すこし書かれたところで終わっているものが多く、それ自体はどうにもならないのだが、たとえばソナタ形式の展開部まで書かれていたりすれば、残りを他者が書き加えて「復元」することは不可能ではないし、そうしたくなるのがモーツァルトを愛する学者の人情というものだろう。前述のクラリネット五重奏曲楽章はその一例だが、これは「実は完成されていた」とする説もある(ATMアンサンブル第21回演奏会の紹介記事参照)。ほかに、ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲イ長調K Anh 104(320e)とか、数多くの舞曲とかの例があるし、ジグシュピール ツァイデ のよくなりの部分が完成していて、序曲などを他作品から借用して上演するものもある。大ミサ曲 八短調K 427(417a)のように、「完成した部分だけでよし」とする作品もある。そしてこうした未完作品の頂点に、数知れないほど多くの補筆復元の試みがなされてきた、音楽史上最高の未完作品のひとつがある。そう言うまでもなく、「死」という究極の理由によって完成を永遠に阻まれたレクイエム 二短調 K 626 だ。



ライスターがモーツァルトのクラリネットのための断片や編曲作品を集めた貴重な盤。(カメラタトウキョウ CMCD28022)

プチ情報 速達

カール・ライスター、茨城交響楽団と共演!

巻頭特集でご紹介したATMアンサンブルとの共演に先立ち、カール・ライスターは4月23日(日)、「第39回水戸市芸術祭交響楽演奏会」に出演、茨城交響楽団と共演します。茨城交響楽団は1960年に結成された、本拠地を水戸におくアマチュア・オーケストラ。創立40周年にマーラーの交響曲第9番をサントリーホールで演奏するなど、意欲的な活動で水戸市民・茨城県民から長く愛され続けています。ライスターは一昨年、水戸室内管弦楽団第59回定期演奏会に出演した際、茨城交響楽

団に特別指導を行い、その際に生まれた友情から、この共演が実現しました。演奏会でライスターはモーツァルトのクラリネット協奏曲のソリストを務める(指揮も兼ねる)ほか、同じモーツァルトの歌劇「皇帝ティートの慈悲」序曲および交響曲第39番で同楽団を指揮します。ライスターの指揮姿が見られるというのも貴重な機会です。チケットは水戸芸術館チケット予約センター(TEL029-231-8000)のみの扱い。公演に関するお問い合わせは、茨城交響楽団事務局・橋本さんまで(TEL029-233-1448)。

information

チケットに関するお問い合わせ

...水戸芸術館チケット予約センター / 029-231-8000
営業時間 / 9:30 ~ 18:00(月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ

...水戸芸術館音楽部門 / 029-227-8118

【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

NHK-FM 水戸「芸術よもやま話」金曜日 18:15頃 ~ 15分ほど。水戸周辺 83.2MHz、日立周辺 84.2MHz。

急告:水戸室内管弦楽団第65回定期演奏会について.....

6月に予定されております水戸室内管弦楽団第65回定期演奏会につきましては、マスコミの報道にもありますように、小澤征爾音楽顧問が過労で休養中のため、氏の回復状況に応じて内容を確定する予定でした。しかし小澤氏から現状では6月の指揮は不可能、との連絡があったため、すでに告知していた演奏会日時・内容を変更し、以下の通り第65回定期演奏会を実施させていただきます(なお、第65回定期演奏会に続いて実施される予定だった第3回ヨーロッパツアーは中止となりました)。

【演奏会日時】 6月8日(木) 9日(金) 10日(土)各日18:30開演

【曲目】 オール・モーツァルト・プログラム

歌劇 フィガロの結婚 K.492より 序曲

オーボエ協奏曲 八長調 K.314(285d) [オーボエ独奏:宮本文昭]

フルートとハーブのための協奏曲 八長調 K.299(297c)

[フルート独奏:工藤重典 ハーブ独奏:吉野直子]

クラリネット協奏曲 イ長調 K.622

[クラリネット独奏:ヴェンツェル・フックス]

協奏交響曲 変ホ長調 K.Anh.9(297B)〔レヴィン復元版〕

[フルート独奏:工藤重典 オーボエ独奏:宮本文昭

ファゴット独奏:ダーグ・イェンセン ホルン独奏:ラデク・パボラーク]

【チケット発売】 4月30日(日)

友の会先行予約発売日:4月27日(木)電話予約のみ

オーボエ奏者としての活動にまもなく幕を引く宮本文昭をはじめとするMCOの管楽器の名手たち、そしてベルリン・フィルの首席クラリネット奏者ヴェンツェル・フックス、ハーブの吉野直子という豪華ソリストが大活躍するモーツァルト・プログラムです。どうぞご期待ください!

チケット発売等の詳細情報については次号(5月号)の本紙インフォメーション欄およびダイレクトメールに同封される演奏会チラシにてお伝えする予定です。4月末に発送予定です。

これからの演奏会・残席情報

○...残席あり(20席以上) ...残席わずか(20席未満) x...残席なし 中央...中央ブロック 左右・裏...左右ブロックおよびステージ裏 補助...補助席

ATMアンサンブル第21回演奏会

4/29(土・祝) ...中央x、左右・裏

音楽物語 ぞうのババール 5/5(金・祝) ...自由席

アンドレアス・シュタイアー フォルテピアノ・リサイタル

5/12(金) ...中央、左右・裏

4/1(土)現在の状況です。

公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問い合わせ下さい。

固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸市芸術祭 茨城交響楽団 水戸芸術館公演

~カール・ライスターを迎えて~

4/23(日)14:00開演 料金(全席指定):A席¥3,000 B席¥2,000

[モーツァルトに贈る音楽の花束-1] ATMアンサンブル第21回演奏会

4/29(土・祝)18:30開演 料金(全席指定):A席¥4,000 B席¥3,000

エントランスホール

パイプオルガン プロムナード・コンサート

4/1(土)13:30/15:00 4/9(日)12:00/13:30 4/30(日)12:00/13:30

ヴァリエーションズ

(茨城県内の演奏家による、さまざまな器楽や声楽が登場するシリーズです。)

4/22(土)13:30/15:00 ソプラノ:清水知子 ピアノ:井上修

入場無料 演奏は各回20分程度です。

ACM劇場

野村万作抄14『鍋八撥』『仁王』 4/15(土)18:30開演

料金(全席指定):S席¥4,000 A席¥3,000 B席¥2,000

こまつ座公演『兄おとと』 4/22(土)19:00開演、4/23(日)14:00開演
料金(全席指定):[一般]A席¥5,000 B席¥3,000 [団体(10名以上・A席のみ)]¥4,500 [友の会会員(A席のみ)]¥4,000

現代美術センター

「人間の未来へ - ダークサイドからの逃走」

2/25(土)~5/7(日)9:30~18:00(入場は17:30まで)

休館日:月曜日

入場料:一般¥800 前売・団体(20名以上)¥600

中学生以下・65歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方は無料

茨城の主な4月の演奏会

常陽藝文センター TEL / 029(231)6611

300人PREMIUM CONCERT 日野皓正クインテット

4/23(日)17:30開演

茨城県民文化センター TEL / 029(241)1166

開館40周年記念事業「宗次郎オカリナコンサート」 4/11(火)18:30開演

水戸市民会館 TEL / 029(224)7521

武蔵野音楽大学同窓会茨城県支部 第34回定期演奏会

4/23(日)14:00開演

ひたちなか市文化会館 TEL / 029(275)1122

大須賀佳織里 第二十絃コンサート 4/14(金)19:00開演

(問)大須賀 TEL / 029(263)0781

日立シビックセンター TEL / 0294(24)7711

音楽シリーズ2006 第16回ひたち出身者によるコンサート「音楽の園」

4/9(日)14:00開演

音楽シリーズ2006「合唱コンサート2006」 4/16(日)15:00開演

常陸大宮市文化センター・ロゼホール TEL / 0295(53)7200

アイダ・ゴメス スペイン舞踊団「カルメン」 4/23(日)18:00開演

ギター文化館 TEL / 0299(46)2457

クエンカ兄弟 ギターとピアノ 4/16(日)15:00開演

ナターシャ・グジー&カーチャ・グジー コンサート ころこに咲く花

4/29(土)14:00開演

ノバホール TEL / 029(852)5881

瀬崎明日香 ヴァイオリンリサイタル 4/8(土)14:30開演

有馬由希子 ピアノリサイタル 4/9(日)14:00開演

つくば学園都市オーケストラ第37回定期演奏会 4/16(日)14:00開演

龍ヶ崎市文化会館 TEL / 0297(64)1411

ポーランドクラフ室内管弦楽団を迎えて

新しいピアノ・コンチェルトとの出逢い in 龍ヶ崎 4/2(日)14:00開演

ジュニアバレエグループエスポワール第4回公演

「コッペリア~全幕~」『ボレロ』 4/16(日)15:00開演

東京佼成ウインドオーケストラ 茨城県南演奏会 4/27(木)18:30開演

結城市文化センターアクロス TEL / 0296(33)2001

中丸三千繪 ソプラノリサイタル 4/22(土)17:00開演

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ] 2006年4月発行 第115号

編集・発行 / 水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]

編集 / 水戸芸術館音楽部門(五十音順):佐川真美 関根哲也 中崎美智代 中村 晃

馬場千恵 矢澤孝樹(編集長)

DTP / office west

印刷所 / 株式会社あけぼの印刷社

次号は...モーツァルトへの花束はまだだある。
そしてババールに何かが?

水戸芸術館の主な4月のスケジュール

コンサートホールATM

「茨城の名手・名歌手たち 第17回」出演者オーディション

4/15(土)14:00開始 入場無料 詳細はP3をご覧ください。